

世界史

1

解答

問1. イ 問2. ウ 問3. ア 問4. オ 問5. イ
問6. イ 問7. オ 問8. イ 問9. ウ 問10. エ
問11. オ

解説

《魏晉南北朝から隋唐時代の文化》

問5. ア. 誤文。殿試は北宋の時代に初めて導入された。

ウ. 誤文。科挙は隋の時代に始まり、清朝末期の1905年に光緒新政の一環で廃止された。

エ. 誤文。科挙は宋代初期まで毎年行われたが、宋代後半に3年に1回の実施となった。

オ. 誤文。唐代には秀才科・明経科・進士科の3つがあったが、北宋代には進士科に一本化された。

問6. イが正解。訓詁学は、漢代に始まった、五経を理解するための注釈をつける学問。

問8. ア. 誤文。陶潜は東晋の詩人である。

ウ・エ. 誤文。『長恨歌』の作者は唐後期の白居易であり、唐中期の詩人の杜甫が「詩聖」と称された人物。

オ. 誤文。蘇軾は唐宋八大家に数えられるが、北宋時代の政治家・文人である。

問10. エの玄宗が正解。呉道玄が玄宗時代の画家であることはやや詳細な内容だが、空欄の前に「8世紀の前半」とあることから判断できる。

2

解答

問1. イ 問2. ウ 問3. キ 問4. キ 問5. エ
問6. オ 問7. ア 問8. エ 問9. カ 問10. ウ
問11. エ 問12. オ 問13. オ 問14. エ

《オスマン帝国史》

問1. バルカン半島を征服したオスマン帝国は、首都を小アジアのブルサからイェニシェに、アドリアノーブルに遷した。

問10. ウ. デヴシルメ制とはバルカン半島のキリスト教の子弟を強制徴収してスルタンの奴隷として教育し、官僚や兵に育てる制度で、イエニチェリもこれにより生み出された。

問12. オスマン帝国と対ハプスブルク同盟を結んでいたオーストリアは、帝国より通商特権のカピチュレーションを付与された。

問14. ア・イ・オ. 不適。いずれも19世紀の出来事である。

ウ. 不適。アフガーニーはイラン出身で、パン=イスラーム主義を提唱した19世紀の人物。オスマン帝国のスルタンであるアブデュルハミト2世はこのパン=イスラーム主義を利用して専制を強化したが、アフガーニーの運動自体はオスマン帝国の動きには当てはまらない。

3

解答

問1. エ 問2. オ 問3. ア 問4. ウ 問5. オ
問6. エ 問7. イ 問8. イ 問9. ウ 問10. オ
問11. イ 問12. ア 問13. イ

《ブリテン諸島の歴史》

問1. ア. 誤文。同盟市戦争の結果、イタリア半島全域の全自由民にローマ市民権が認められた。

イ. 誤文。ポンペイウスは前1世紀に活躍した人物。ポエニ戦争は前146年に終了している。

ウ. 誤文。カエサルはガリア遠征をおこなったが、ガリアの属州総督になったのではなく、ローマに帰還してライバルのポンペイウスも打倒、独裁官に就任して全権力を掌握した。

オ. 誤文。属州全域（領内全域）にローマ市民権が拡大するのは、カラカラ帝の時代。アントニヌス勅令により実現したが、その裏には税収増という目的があった。

問2. ア. 誤文。『ゲルマニア』を著したのはタキトゥス。

イ. 誤文。哲学者セネカに師事した皇帝はネロである。『自省録』の著者

で、ストア派哲学者の皇帝はマルクス=アウレリウス=アントニヌス帝。
ウ. 誤文。ソリドゥス金貨を導入し、帝国の交易の円滑化をはかったのは
コンスタンティヌス帝。

エ. 誤文。ニケーア公会議を開催したのはコンスタンティヌス帝で、キリ
スト教を国教化したのはテオドシウス帝である。

問3. イ. 誤文。イエズス会は1534年に組織された修道会である。

ウ. 誤文。6世紀以降のゲルマン人に広がっていたのはアリウス派である。
ネストリウス派は主に東方に広まった。

エ. 誤文。グレゴリウス改革は11世紀に行われた。また、聖像禁止令は
726年にビザンツ（東ローマ）皇帝のレオン3世が発した。ローマ教会は
ゲルマン人への布教に聖像を用いており、この法令に激しく反発した。

問4. ア. 誤り。アッティラはフン人の王。

イ. 誤り。クローヴィスはフランク族を統一し、メロヴィング朝を創始し
た王。

エ. 誤り。ロロはノルマン人の首長で、ノルマンディー公国を樹立した。

オ. 誤り。アルフレッドはアングロ=サクソンの王。エグバートの子孫で、
ノルマン人（デーン人）のブリテン侵入を撃退した。

問5. やや難問。

ア. 誤文。中世フランス語は支配階級となったノルマン人の間で使用され
たが、被支配階級のイングランドの人々は英語（古ゲルマン語）を使用し
ていた。強制された事実はなく、英語にフランス語の語彙が混じることは
あったが、英語が根絶されてはいない。

イ. 誤文。アイルランド支配に乗り出したのはプラントジネット朝のヘン
リ2世。

ウ. 誤文。大憲章を発布したのはプラントジネット朝のジョン王。

エ. 誤文。ウィリアム1世は、アングロ=サクソン系の貴族を服属させ、
ノルマン貴族を封建しイングランドを統一、王権の非常に強いノルマン朝
を成立させた。王権が強かったがゆえに、イギリスでは王権を制限する
「議会」の伝統が形成されてゆく。

問6. エが正しい組み合わせ。百年戦争のきっかけの一つは、フランスで
カペー朝が断絶してヴァロワ朝が成立したことに対し、カペー家の血をひ
く英王エドワード3世が王位継承権を主張したことであった。一方、スコ

ットランドでは1371年にステュアート朝が成立した。詳細な内容である。

問7. ア. 誤文。国王至上法の制定により、国王を首長とするイギリス国教会が成立する。護国卿とは、ピューリタン革命の結果成立した共和政下でクロムウェルが就任した役職である。

ウ. 誤文。国教会成立後、一時カトリックを復活させたのはメアリ1世である。

エ. 誤文。著書『愚神礼賛』でカトリック聖職者や王侯の腐敗を批判したのはエラスムスである。トマス=モアは『ユートピア』の著者で、大法官の任にあった時、国王ヘンリ8世の離婚に反対し処刑された。

オ. 誤文。エリザベス1世の時代に国教会を確立した法令は統一法と呼ばれる。

問8. ア. 誤文。スコットランド国教会はカルヴァン派の長老主義を採用した。

ウ～オ. 誤文。スコットランドのカルヴァン派はプレスビテリアンと呼ばれる。

問9. ア・イ. 誤文。反乱鎮圧の戦費調達のために11年にわたり開かなかった議会を招集したが、議会は課税を拒否し、国王を糾弾した。

エ・オ. 誤文。反乱の原因は国王がスコットランドにイギリス国教会を強制したことにある。

問10. ア. 誤文。共和政（コモンウェルス）は、王党派ではなく議会派が樹立し、主導した。

イ. 誤文。共和政は、国王チャールズ1世が処刑されて成立した。

ウ. 誤文。ウェストファリア条約で正式に承認された国家はスイスとオランダである。

エ. 誤文。東インド会社はエリザベス1世治世下の1600年に成立した。

問12. イ. 誤文。北アメリカ植民地との間で武力衝突が起こった要因は、イギリス本国が印紙法や茶法で北アメリカ植民地への課税と統治を強化しようとしたことである。

ウ. 誤文。東インド会社の解散は、インドで起こったシパーヒーの乱鎮圧後の1858年に決定した。

エ. 誤文。アミアンの和約は統領政府下でナポレオンが第一統領であった1802年に締結された。ナポレオンの皇帝即位は1804年である。

オ. 誤文。ロシアが武装中立同盟を結んだのは、アメリカ独立戦争に際し、イギリスを牽制するためである。

問13. ア. 誤文。グラッドストーン内閣が成立させた、アイルランドの土地問題解決のための法は、アイルランド土地法である。

ウ. 誤文。穀物法は、安価な外国産穀物の流入でイギリス国内の穀物価格が下落することを防ぐために、輸入穀物に高関税を課するという法律。

エ. 誤文。農業・鉱山労働者の上層に参政権を与えた第3回選挙法改正と、アイルランド自治問題は無関係である。

オ. 誤文。1914年にアイルランド自治法が可決されたが、第一次世界大戦勃発を理由に実施は延期された。このためアイルランドではイースター蜂起がおこった。アイルランド自由国の成立は1922年のことである。

4 **解答** **問1.** イ **問2.** ア **問3.** ウ **問4.** ウ **問5.** オ
問6. ウ **問7.** イ **問8.** エ **問9.** オ **問10.** エ
問11. エ

解説

《世界近代史における革命》

問1. ア. 誤文。イギリスのジェンナーは種痘法を発明した人物。

ウ. 誤文。フランスのパストゥールは狂犬病の予防接種を実現した人物。

エ. 誤文。ドイツのケプラーは惑星運行の法則を理論化した人物。

問2. イ. 誤文。奴隷解放宣言は1863年に発布された。アメリカの産業革命は1830年代に始まり、南北戦争後に本格化するが、中国人クーリーやアイルランド人などの移民が労働力としてアメリカに大量に流入した。

ウ. 誤文。イギリスでは工場は農村ではなく都市部に建設された。そのため農村から工業化著しい都市への大規模な人口移動がおこり、都市の発展の裏で人口過密・治安悪化・工業汚染・衛生状態の悪化などの社会問題が発生した。

エ. 誤文。世界で初めて蒸気機関車の営業運転が始まったのはイギリスで1825年のこと。1790年代に蒸気機関車は発明されていない。

問3. ア. 誤文。イギリスをモデルに三権分立を説いたのはフランスのモンテスキューである。

イ. 誤文。『哲学書簡』はフランスのヴォルテールの著作。ルソーは『社

会契約論』である。

エ. 誤文。経験論と合理論を総合したのはドイツのカント。ケネーはフランスの経済学者で重農主義の祖。同じくフランスのデイドロはダランベールとともに『百科全書』を編纂した人物。

問4. ア. 誤文。ルイ16世の一家は1793年に処刑された。

イ. 誤文。1795年、憲法に基づき、国民公会が廃止され総裁政府が樹立された。

エ. 誤文。ドイツ諸邦がナポレオンの保護下で結成したのはライン同盟である。

問6. ア. 誤文。1831年、青年イタリアを結成したのはマッツイーニであり、結成地は亡命先のマルセイユ。結成当時にはナポレオンは配流先のセントヘレナ島ですでに死去している。

イ・エ. 誤文。イタリア統一戦争で、サルデーニャがオーストリアと戦って獲得したのはロンバルディアである。プロイセン=オーストリア戦争でイタリアが獲得した地がヴェネツィアである。

問7. ア・ウ. 誤文。コシュートはハンガリー民族運動を主導した人物で、オーストリアからのハンガリーの完全独立を宣言した。三月革命で失脚し亡命したのはメッテルニヒである。エンゲルスはマルクスの盟友で社会主義者。

エ. 誤文。フランクフルト国民議会は、小ドイツ主義に基づくドイツ帝国憲法を採択したが、プロイセン国王は帝位を拒否したため統一はならなかった。

問8. ア. 誤文。対外債務返済停止を口実に、イギリス・フランス・スペインが武力干渉したのは1861~67年のメキシコ遠征である。

イ. 誤文。ファレスが大統領として民主化に貢献したのは1858年以降のこと。

ウ. 誤文。ディアスの独裁政権が、マデロや農民軍を率いるサパタやビリヤの活躍で打倒された。

問9. ア. 誤文。ブレスト=リトフスク条約は、ソヴィエト政権がドイツなどと結んだ単独講和条約のこと。

イ. 誤文。ニコライ2世が退位したのは二月革命。

ウ. 誤文。ロシアにおける農奴は、1861年の農奴解放令ですでに解放さ

れていた。

エ. 誤文。第1次五カ年計画の開始は1928年である。

問10. ア. 誤文。ヒトラーは首相就任後ただちに総選挙を実施し、全権委任法を国会で可決して独裁権を握った。ミュンヘン一揆はナチ党がまだ弱小であった1923年、ヒトラーが起こした武装蜂起であり、失敗してヒトラーは投獄された。

イ. 誤文。ドイツが国連を脱退したのは、ジュネーヴ軍縮会議で軍備平等権が否定されたからである。

ウ. 誤文。ティラナ条約でアルバニアを保護国化したのは、イタリアのムッソリーニである。

問11. ア. 誤文。1956年のスエズ運河国有化に反発した英・仏が、イスラエルとともに起こしたのは第二次中東戦争。

イ. 誤文。1949年に原爆開発に成功してアメリカに次ぐ核保有国となったのはソ連である。

ウ. 誤文。ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体は1952年に成立した。